

News Letter

2025年

2月

中国四国農政局
島根県拠点

「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」優秀賞受賞 中上 光さん ～隠岐の豊かな海で育む「隠岐のいわがき」～

農林水産省及び内閣官房は、「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」(第11回選定)として全国30地区を選定。個人部門の優秀賞を島根県西ノ島町でイワガキの養殖を行っている中上 光(なかみ ひかり)さんが受賞され、東京都において選定証授与式及び交流会が行われました。

中上さんは、昭和53年に西ノ島町でイタヤ貝の養殖を始めましたが、収入時期が限定的であるため、地元の海に生息していた大きな天然のイワガキに着目。種苗生産施設を建設し、昭和63年に稚貝生産をスタートさせ、平成4年に全国で初めてイワガキの完全養殖を成功させました。これをきっかけに、隠岐4島でイワガキ養殖が広がり、漁業者の所得向上のみならず、地域の雇用創出にも大きく寄与されています。

平成12年には「隠岐のいわがきブランド化推進協議会(※)」が組織され、『隠岐のいわがき』の名称でブランド化を進め全国へPR。中上さんから始ま



総理大臣官邸で開催された交流会での記念撮影
(右から3人目が中上さん。中上さん提供)

り大きな産業となったイワガキ養殖は、隠岐地域で2億円産業にまで成長しました。

かつては潜水による漁獲が一般的だったため、入手困難な高級品だったイワガキですが、この養殖技術が全国へ普及したことに伴い、以前より比較的手軽に食べることができるようになりました。

養殖イワガキは通常3年程度で出荷しますが、中上養殖場では5～6年養殖した後に出荷します。中上さんは、「更なる水揚げや品質の向上、後継者育成に力を入れていきたい」としています。



養殖4年目のイワガキ

(※) 隠岐のいわがきブランド化推進協議会：島根県、隠岐4町村、漁協及び生産者から構成される組織

中上養殖場のホームページは、下記URLからご覧ください。<https://www.okihikari.com/>
(外部リンク)



ディスカバー農山漁村の宝 選定地区等へ選定証を授与

中国四国農政局は、中国四国農政局「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」として9地区、地方奨励賞として29地区を選定しました。島根県拠点は、県内の4地区（選定地区の個人部門1名、地方奨励賞の1地区及び個人部門2名）に対し、選定証を授与しました。

選定地区（個人部門）

島根県安来市

（おおもり ゆうすけ）

大森 雄介さん

～くるもの拒まず、去らせない～



（大森さん提供）

平成28年に神奈川県横浜市からIターン、2年間の研修期間を経て平成30年に独立就農。地元になかった「いちご狩り園（おおもりファーム）」の開園や、いちご栽培施設を利用したメロンとの二毛作営農モデルを確立する等、新規就農者ならではの視点で農家の所得向上や「安来のいちご」のPRに貢献してられました。



地方奨励賞選定地区

島根県松江市

（ゲストハウスかたゑ庵）

（あおと ゆうじ）

青戸 裕司さん

～ありのままで魅せる、その漁村は歓交地に～

令和元年に築100年の古民家を改装したゲストハウスかたゑ庵を開業。ジオパークを生かしたカヤック体験ツアーやフォトツーリズム等を提供し、国内外から観光客を呼び込み、地域の活性化に大きな効果をもたらしています。



（青戸さん提供）

島根県江津市

（あといち）

跡市環境保全組合

～住んで良し、訪ねて良しの故郷づくり～

地域の農地を守ることを目的として平成19年に設立。

伝統文化「花田植え」の伝承など子供たちの農業体験や6次産業化の活動など、地域コミュニティの強化や関係人口の拡大などが行われています。



（跡市環境保全組合提供）

島根県海士町

（よしかわ たかし）

吉川 岳さん

～究極のサステナブル漁、世界一の品質の魚、離島のハンデを強みに変えて～

吉川さんは、素潜り鉈突き漁師として、漁は一日最大で5尾まで、小さく痩せている魚は獲らないと決め、資源管理を意識しておられます。鉈突き直後から独自の技術による鮮度維持方法を確立。顧客の手元まで届くのに時間がかかる離島のハンデを熟成期間にかえて、市場価格の約3倍の高単価取引を実現しています。



（吉川さん提供）

中国四国農政局「ディスカバー農山漁村の宝」第11回選定地区一覧は下記URLからご覧ください。

<https://www.maff.go.jp/chushi/nouson/kaseika/discover.html#tyuushisentei>